

小平西のきずな

小平西地区・地域ネットワークニュース No. 12

2014年12月16日(火)発行

発行責任者:草野篤子(西ネット代表)

電話:042-346-5639(白梅学園大学企画調整室)

住所:〒187-8570 小平市小川町 1-830

小平西地区のみなさま、そして「西のきずな」ご愛読の皆様

小平西地区地域ネットワーク代表 草野 篤子

久しくご無沙汰を申し上げております。

わたくしは、やっと体力を回復し、また大学での授業を担当できるようになりました。

大変ご心配をいただき、有難うございました。その間、皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。

10月29日(水)には、白梅学園大学においてコミュニティ・カフェを前期の安永先生のコミュニティ・カフェを引き継いで、開催いたしました。

今回は、家族・地域支援学科の山本澄玲さんが実行委員長、小泉美幸紀さんが副実行委員長で企画し、『世代間交流演習』の履修者みなんで、盛り上げていきました。

各戸配布されたチラシをご覧になってお集まりくださった地域の方、オリーブをはじめとしたデイ・サービスの方々など、多くの方がご参加くださり、とても楽しいひと時を過ごすことができたという感想を何人もの方からいただきました。白梅学園の小松理事長先生をはじめ、大学の先生方、西ネ

ットの世話人の方々も参加してくださり、短い時間でしたが、学生たちが作り上げた多世代のコミュニティ・カフェの良さを、味わえたと思います。

大学周辺の第3ブロックでは、今年の1月から「ほっとスペースきよか」開設のための準備会を設け、月に1回集い、民生委員の石川さんを中心に準備を続けています。この「ほっとスペースきよか」は、白梅学園大学から歩いて3、4分のところであり、地域の方から一戸建ての家を無償で使用させていただいております。

人と人の「顔の見える関係」を作っていくためには、「コミュニティ・カフェ」や「コミュニティ・サロンほっとスペース」など、様々な仕掛けを作っていくことが重要です。引きこもりの青年や、孤立して暮らす高齢者など、このような場所まで出かけてこれない人たちに対しても、何らかの手を差し伸べる手だてを、わたくしたちは、今後、考えていく必要があると思います。

☆「西地区・地域ネットワーク」とは?☆

2012年3月17日に小平市西地区を活動の拠点にしているNPO、ボランティア団体、民生児童委員、自治会や白梅学園大学、地域の大学や小学校、行政などのみなさんが集まって

「**お互いの顔が見える地域づくり**」を目指し、地域のネットワークを誕生させました。

地域の皆さん! 一緒に交流や情報交換、イベントを通じて心と心をつなぎ挨拶と笑顔でいっぱいの地域に育てませんか。



西ネットも白梅祭に参加しました

☆3回目の白梅祭はきずなの花が咲きました☆

両日ともに地域の方や行政の方、世話人のみなさん、学生、卒業生や子どもたち約100人が西ネットのコミュニティ・カフェを訪れました。今年で3回目の参加です。学生と世話人で各ブロックの活動や中学生無料勉強会などの展示物を作成しました。鷹の台ホークス、小平市食物資源循環モデル事業の堆肥の展示も学生たちがレイアウトし、展示物を見ていただきました。当日は、関谷さんが栽培した数珠玉を使って、お手玉づくりを学生も見学者も楽しみました。

西ネットは、2011年9月の呼びかけから、きずなづくりを大切にし、100m単位での人間関係をつくっていくことを目指し、地域と大学(白梅学園大学を中心として)、行政の3者協働の活動を発展させてきました。今年は、群馬県太田市の青年会議所、山梨県都留市、神奈川県相模原市の行政の方などが西ネットの取り組みに関心を持たれ、見学にられました。他市の行政の方と一人暮らしの高齢者増加に対応した街づくり、顔の見える関係を育てていく街づくりのポイントや連携の課題について話し合い、交流しました。都留市は市立の大学もあり、白梅学園大学が今後、地域にどのように関わっていくのか、意見を求められました。

西ネットの設立から2年以上が経過し、周りにも認知され始めました。顔の見える関係を大切に、信頼し合える人と人とのきずなを豊かにしたいと思います。(学内世話人 瀧口真央)



☆自分らしい暮らしをいつまでも送れるように☆

白梅大学子ども学部 家族・地域支援学科

3年 岡田 弘樹

10月18日(土)、10月19日(日)の二日間、白梅祭が行われた。今回は、小平西地区地域ネットワークの活動の一環で、森山ゼミナールとしては、「介護(福祉)用具の展示」に関わった。福祉用具については、以前、講義で学んだことがあったため、少しだけは知っていたが、知らない福祉用具の方が多かった。数ある福祉用具の中でも印象に残っているのが、「とろみ調整食品(介護用食事補助剤)」と「介護用箸・スプーン」の二つである。

「とろみ調整食品(介護用食事補助剤)」は、実際にコーヒーの中に入れて飲んでみたのだが、誤嚥防止には良いと思った。しかし、安全性を重視しすぎるあまり、美味しく食べたい、美味しく飲みたいという利用者(クライアント)の欲求を無視してはならないと思った。

「介護用箸・スプーン」は、利き手が使えない時や、後遺症などによる障害を負った人でも使えるようになっているため、実際に触ってみても使いやすいデザインだと感じた。これら福祉用具についての知識も身につけ、ソーシャルワーカーとして、福祉用具を必要としている

クライアントに情報を伝える「教育者(エデュケーター)」としての役割を果たさなければならないと思った。



残念ながら、19日(日)のみの参加であったため、来訪者との対応はあまり多くはなかった。しかし、その中でも来訪者の方々とお話しさせてもらったことで、感じたことがある。それは、「自分も含め、人間は誰しも年を取り、いつかは介護のお世話になる。他人事ととらえるのではなく、介護についてしっかり学ぶ必要がある。」ということだ。いくつになっても、障害を負っても、「自分らしい暮らし」を送れるように、今から準備をしておかなければならない。介護の大切さについて改めて気付かせてもらった、貴重な一日となった。

家族・地域支援学科 第 22 回介護福祉学会で西ネットについて報告

白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科 土川 洋子

家族・地域支援学科 第 22 回日本介護福祉学会に参加してきました。

2014 年 10 月 4 日（土）5 日（日）に、第 22 回日本介護福祉学会が日本社会福祉事業大学で開催されました。この学会に、家族・地域支援学科介護系教員で「地域コミュニティにおける介護福祉の役割—小平西地区を中心とした白梅学園大学の取り組みから—」というテーマで、自主企画シンポジウムをエントリーしました。

これまでの小平西地区地域ネットワークの取り組みに至った経緯や、学科のカリキュラムにどのように取り入れているかなどを紹介し、介護福祉の地域における役割についての意見交換の場となりました。

この企画には、本学の介護福祉士資格取得希望の 3 年生を中心とした学生も多数参加し、また、卒業研究で、小平西地区の高齢者の買い物問題を取り上げ、総まとめに入っている 4 年生がその経過報告をするなど、学生にとっても介護福祉に関する研究活動の成果報告の場としての学会紹介ができる機会となりました。今後も、このような機会を有効活用したいと考えています。



第 22 回 日本介護福祉学会（於 日本社会福祉事業大学）に参加した学生と教員

🌸2014 年度第 1 回懇談会🌸

❖ 第 14 回（今年度第 1 回）地域懇談会の報告 ❖

今年度第 1 回目の地域懇談会は 5 月 27 日（火）に開催されました。冒頭に白梅学園大学教育福祉研究センターの山路センター長と西ネットの森山事務局長より、文部科学省の「地（知）の拠点事業」に申請した内容について報告があり、小平西地区・地域ネットワークを基盤として、地域づくりをどのようにすすめるのか、大学がどのように関わっていくのかの話がありました。

続いて「小平西地区・地域ネットワークを考える」としてパネルディスカッションを行い、白梅学園大学からは近藤副学長、地域からは世話人の足立さん、久保田さん、細江さん、そして内田さんがそれぞれの思いを語りました。地域にはたくさんの困っている人がいるにもかかわらず、きずなづくりにはなかなか関心を示してもらえない中

で、どのように地域で顔の見える関係をつくっていくのかが模索されました。

大学からは生活支援技術や世代間交流、あるいは地域子育て演習などの授業を通して学生と地域のつながりをつくる姿勢を重視していること、学園全体としても地域との連携を重視していることが語られ、地域からは大学の果たす重要な役割について「ネットワークの推進力は学生である」というエールが送られました。

フロアからの発言も含めて、日常の関わりを点と点から線と線、そして面に広げていく取り組みをしていくことによって、行政も巻き込んだネットワークづくりが進むのではないかとというまとめとなりました。（学内世話人 瀧口優）

2014 年度第 2 回懇談会

地域懇談会が 9 月 20 日に開催され、有吉佐和子作「恍惚の人」(1973 年)の上演の後、介護保険制度改革の説明が森山千賀子世話人よりありました。来年度より自己負担率が引き上げられ、施設入所は、要介護 3 以上、食費や部屋代の認定基準の変更・遺族・障害年金の収入加算が行われます。訪問看護、訪問入浴サービス、リハビリ、ショートステイ等は介護保険サービスです。訪問介護やデイサービスなどは、要支援事業の市町村事業に移管されます。サービスの地域間格差の問題等が起こることが指摘されました。

ついで小規模多機能型居宅介護施設について、第 2 こだま施設長の鈴木大智氏のお話があり、各ブロックで懇談をしました。(学内世話人 井上恵子)



介護現場からみた地域ケアのあり方について

NPO 法人第 2 こだま
小規模多機能型サービス やまびこ
施設長 鈴木 大智

私は、NPO 法人第 2 こだまで介護の仕事に携わるようになって、8 年目になります。介護の現場を通して日々実感するのは、地域の中で、特に認知症で一人暮らしの方など、介護保険を利用したくても利用の仕方がわからず、生活に必要な支援を受けられない人が沢山いるということです。また、サービスを利用できたとしても、年金暮らしで、介護保険料に加えての 1 割負担の利用料、そして食事や宿泊費などの自己負担を気にされて、サービスを減らして利用される方が目立ちます。

介護保険料を毎月支払っているはずなのに、どうして思うようなサービスが受けられないのでしょうか。

今年の 6 月、「医療介護総合推進法」という法律が成立しました。この法律では、要支援者の通所・訪問サービスを市町村の地域支援事業に移行する、特別養護老人ホームの入居者を要介護 3 以上にする、所得の多い高齢者の利用料を 2 倍にするなどが謳われ、介護の重点化、効率化という名のもとで更なるサービス削減と負担増が見込まれています。

「介護の社会化」といって始まった介護保険ですが、現実には、所得の少ない人は満足なサービスが受けられず、家族の介護負担もより重く深刻になっています。

介護保険を本当の意味ですべての人たちの生活に寄り添ったものにしていくためにも、地域で暮らす高齢者の方たちを、軽度の段階からその兆候を見逃さず、介護サービスにつなげ、重度化させないためのネットワークづくりと、介護事業所が相談窓口となり、その声を集約・分析し行政に訴え、介護サービスを地域の中で安心して受けられるように求めていく必要があると考えています。NPO 法人第 2 こだまとしても地域連携の一翼として、奮闘して行きたいと思っています。



小平西地区・地域ネットワークの運営について

1. (名称)

本会は、小平西地区・地域ネットワークと称する。

2. (構成員)

本会は、小平市の府中街道以西の地域（以下「小平西地区」という）の市民または白梅学園大学関係者（教職員、学生、その他学園内関係者）であって第3項に定める本会の目的に賛同しまたは第4項に定める本会の活動に参加する者をその構成員とする。

「小平西地区の市民」とは、小平西地区に住み、小平西地区内で働き、学びまたは活動する者で白梅学園大学関係者以外の者をいう。（以下「地域市民」という）

3. (目的)

白梅学園大学関係者と地域市民は、小平西地区において、連携協力して本会の活動を行なうことにより相互信頼に基づく人のつながり・ネットワークをつくり、人間関係が豊かな地域づくりを目指す。（添付の「小平西地区地域ネットワークの結成にあたって一準備会からの提案」（抜粋）参照）

4. (活動内容)

本会は、前項の目的を達成するため、小平西地区において次のような活動を行なうものとする。

- (1)居場所づくり
- (2)イベントや事業の企画・運営
- (3)懇親会、懇談会の開催
- (4)地域活動やイベント開催に関する情報の収集・提供
- (5)地域活動やイベントへの参加・協力
- (6)行政との連携・協力
- (7)本会の広報紙の発行および配布
- (8)その他の活動

5. (事務局)

本会は、事務局を白梅学園大学内に置く。

6. (世話人会および役員)

- (1) 本会には、本会の設立発起人会が委嘱する世話人（30名）で構成される「世話人会」を置く。
- (2) 世話人会は、白梅学園大学関係者から選出された「学内世話人」（17名）と地域市民から選出された「地域世話人」（13名）とからなる
- (3) 世話人の互選により以下の役員を置く。
代表世話人 1名（学内世話人から選出）
副代表世話人 3名（学内世話人から1名、地域世話人から2名選出）
事務局長 1名（学内世話人から選出）
- (4) 役員職務
代表世話人 本会を代表し会務を統括する。
副代表世話人 代表の補佐を行う
事務局長 本会の事務を統括する
- (5) 世話人および役員任期
世話人および役員任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年とする。ただし再任をさまたげないものとする。
- (6) 世話人会の開催頻度
世話人会は2か月に1回を目安に開催する。

7. (財政)

本会の活動に係る費用の一部は、公的な資金の獲得を含めて学内世話人会で手配する。

8. (変更)

この申し合わせの変更については、世話人会において協議して決める。

以上の通り2014年9月9日世話人会において申し合わせた。



「きずな」に入っていく

朝鮮大学校教育学部保育科
主任 金陽昇(キム・ヤンスン)

白梅大学に勤めておられました金田利子先生、瀧口真央先生が、わが校の保育科で講師をされておられるご縁で、白梅子育て広場「あそぼうかい & 世代間交流広場」に参加させていただいて6年ほどたちます。教育課程の都合で7月の行事のみ参加しております。

私事ですが、わたくし金は、2011 学年度より保育科の主任となりましたので、その時から行事に参加しています。

はじめて参加したときに、「これは大変面白い」と思いました。というのもわが校は1959年に現在の小平市小川町に移転してきたので50年以上小川西地域にあります。地域の市民生活に近い「場」にふれあう機会がなかなか見つからず、地域社会とは疎遠であったと感じていたからです。

朝鮮大学校に通う学生は、(朝鮮半島から来られた方々を1世とすると)みな3世、4世にあたる人たちで、少なくとも祖父母世代から日本で生まれ育っておりますが、朝鮮学校出身者がほとんどであるということもあって、同世代の日本の若者と一緒に学んだり作業したりするという機会は大変限られています。

2013 学年度は無理を言って、行事の準備にかかわる講義やミーティングから参加させていただきました。



そんな学生たちなので、行事を日本の学生たちと一緒に作り上げていく過程や、行事の中で日本の子供たちや親御さん、ご高齢者の方々とふれあ

う中で感じることは多く、「よく知っているはずの日本」をまた新たに「発見」する重要な学びの場となっています。

私たちが参加することで、「世代間プラス異文化交流」の相乗効果があればうれしいかぎりです。

在日朝鮮・韓国人が「在日」して100年にもなろうとしています。初対面の挨拶は「日本語が上手ですね。いつ日本に来たんですか？」というのがいまだに定番です。最近の学生たちもそれに答えるのが面倒くさいそうです。下手をすると100年の歴史を語る羽目になってしまうような…

このような傾向は私が幼いころや若いころより顕著になってきたように思われます。少なくとも在日朝鮮・韓国人が多く住む地域の日本人はわれわれをよく「理解」していましたが、親や祖父母の代からの付き合いもしっかりしていました。そういう意味では在日朝鮮・韓国人に対するある意味の「無理解」も、地域社会の崩壊と深い関係があるのではないかと思うようになりました。

昨今のヘイトスピーチなども、在日朝鮮・韓国人が「隣に住む人」であるという「現実感」がない人々が多くなってきたことが遠因となっているのではないのでしょうか。

日本のほとんどの地域に在日朝鮮・韓国人が住んでいます。何十年もそこに住み、日本人と一緒に地域社会を作ってきました。地域社会の崩壊は「隣の人」を見えなくしてしまいます。そして少し事情の違う「異質な隣人」をもっと見えない存在にしてしまいました。

「きずな」の中にわれわれも入っているのか？ という疑問を感じざるをえない場面に多く遭遇するようになりました。だからこそもっと、「きずな」の中に積極的に入っていこうと思っています。これからはよろしく願いいたします。

朝鮮大学校教育学部保育科では、毎年、1年生の実技発表会を開催しています。今年は2014年12月18日(木)の16時と20時からの2回の公演です。場所は、保育科室です。正門に案内があります。

白梅学園と共に

白梅学園大学・短期大学 企画調整部部长 遠藤 正子

私は、白梅学園短期大学を卒業し、その後43年間白梅学園で勤務して、この3月に退職を迎えます。過ぎてみればあっという間ではありましたが、この間、学園周辺の環境は大きく様変わりしてきました。栗林や雑木林、畑などはどんどん減少し、大きなマンションが建ち、住宅が増え、玉川上水緑道は通学生や住人の増加に伴って整備されてきました。それでも、他の地域の変化と比べれば、まだまだ自然が豊富でどかな雰囲気がこの地域にはあり、学生が学ぶにはとても良い環境であると思います。

白梅学園は、高円寺から小平の地に移ってきた当初(1964年)、短期大学とその年に開設した高等学校のみでした。その当時は、鷹の台駅から白梅の校舎が見えていたと聞いています。その後、間もなく幼稚園も高円寺から移ってきました。そして、2005年に4年制大学、翌年中学校を開設、2008年には大学院を開設するなど時代と共に学園組織は変化してきました。



1942年東京家庭学園発足

私は、短大の学科事務・学生課、大学・短大の進路指導課を経て企画調整部及び法人企画室で勤務してきました。その大半の年月を学生指導の立場で学生たちとともに過ごし、時代と共に学生及び学生を取り巻く環境の変化を見てきました。経済状況を含めた家庭環境、学修環境、若者の興味・関心事・ファッションなど様々に変わってきました。若者のマナーの悪さが極端に目立っていた一時期、構内の通路にグループで円陣を組んで、いわゆる地べた座りで飲食し、喫煙し、ゴミをその

場に放置する学生たちがいました。自由をはき違えて他人の迷惑を顧みない学生や喫煙学生たちへの生活指導にはホトホト手を焼きました。一方で、学費の支払いのために長時間アルバイトに追われ、苦勞してようやく卒業できた学生やそれでも学生生活を中断せざるを得なかった学生も。現在、奨学金制度はかなり充実してきてはいますが、経済的に厳しい学生生活を送っている学生が今もたくさんいて、学生の生活支援を担う教職員は苦慮しています。自由には見えていても、個々には、勉学や実習に追われ、お金の苦勞し、家族や友達関係に悩みながら学生生活を送っています。

何時の時代にあっても、学生たちは将来になりたい自分になるために学び、学生生活を謳歌し、時には羽目を外し過ぎて、通学途中や構内で大騒ぎして、近隣の方々から苦情を賜ることもあります。そのためにも、学生たちが地域活動を通して地域の皆さんと交流することで、地域とともにあることを意識してほしいと思います。積極的に関わる中で、自分に何が出来るのか、何をしたいのかを考えるとともに、社会人としてのマナーを身に付けてほしいと思っています。



白梅学園大学正門

社会人になる最後の時間、なりたい自分になるために一生懸命学び、考え、悩み成長していく学生たちのその時間を大学職員として支援する仕事を続けられたことは、私にとってとても幸せなことでした。これからも学生たちが西地区の皆様に見守られながら地域の一員として育って行くことを願っています。



🐢小平西地区・地域ネットワーク フロック活動の報告🐢

第1フロックの報告(小川西・栄町)



✿障害者センター祭り✿

9月7日(日)は障害者センターまつりでした。今年は実習や学内の行事などが重なって、学生の出席が少なかったのですが、子育て広場OBのLINKのメンバーが協力してくれて、17人ほどでやきとりの出店ができました。継続して参加することによって、白梅が地域に位置づいてきました。

✿十三小地区防災訓練✿

10月4日(土)は、「第5回地域防災はご近助(所)力から～十三小地区防災訓練～」に白梅として初めて参加しました。当日は豚汁とアルファ米の提供もあり、学生たちが豚汁づくりやアルファ米づくりに汗を流しました。100人を越える参加者で、市長もあいさつに来ていました。民生児童委員の対象地域ごとにテーブルが作られていて、近所に住んでいるお互いの顔を知っていくにはとてもいい機会になったと思います。土曜日だったので授業がある学生も多かったのですが、学生会の学生を中心に参加しました。主催した十三小地区防災ネットワークは、小平市立障害者福祉センター、十三小地区民生委員児童委員、NPO法人サポートクラブあすなろ、後援は小平市及び小平市社会福祉協議会です。



✿小川西公民館祭り✿

10月11日(土)12日(日)は、小川西公民館祭りでした。小平西地区地域ネットワークの第一ブロックとして展示や催し物に参加することはしませんでした。世話人会を中心に当日のお祭りに参加し、地域の人々との交流を行ってきました。



✿第20回青少対祭り✿

11月8日(土)は第十三小学校の第20回青少対祭り。学生3人の協力を得てジュースの販売のお手伝いしました。障害者センターまつりや防災訓練、公民館祭りで顔見知りになった人々とたくさん出会い、地域の顔が少しずつ見えてきています。ブロックの世話人会は7月15日、8月5日、そして10月14日と開催し、これから3月に向けて新たな企画を考えています。

(学内世話人 瀧口 優)

第2フロックの報告(中島町・小川1丁目《西》・上水新町1)

✿防災キャンプ2014を開催して✿

地域世話人 芳井正彦

一年を振り返るにはまだ早いですが、近年にない豪雨などの異常気象・火山の噴火等による自然災害が頻発し、多大な被害が発生した。首都直下型・東南海大地震も予想される状況で防災について考えることにした。7月、ブロックで内容を検討し、起震車・けむり体験・消火器体験等々を骨子とする案が決定する。小平消防署に消防訓練申請書を提出して結果を待ったが抽選に外れ起震車は呼べなくなる。

8月、けむり体験・消火器体験をメインとしたチラシを作成・配布して近隣の方々に呼び掛ける。9月、現地であるこどもキャンプ場・きつねっばら公園の下見を行う

いよいよ10月4日の当日を迎える。数日来、心配された台風も来ないで秋晴れの天候に恵まれる。参加を予定した小学校の運動会と重なり、また、けむり体験が故障で使用出来ないとの連絡が入る等々開催まで難産だった。それでも近隣の保育園の園児たち・自由遊びの会のメンバーの方々が多く参加して下さり40名を超える防災訓練が出来た。



最初に緊急時の電話対応である。用向きや住所も咄嗟の場合には慌ててしまい正確な対応が出来ないものだ。続いて、初期消火訓練に移り消火器の扱いを教わる。初期消火には有効だが天井まで火が上がると勢いが強くて消火器では消えないそうである。5～7メートルぐらいまで近づいて①ピンを抜き②ホースを向け③レバーを握るという順序で行う。消火剤の噴射時間は15秒ぐらいなので的を外さないことが第一条件である。次に、消防車の様々な装備と機能の説明を受け、運転席に座ってみたり、消防士の服を着てみたり普段は出来ない体験をする。

お昼が近づき、おにぎりやすいとんの炊き出しの用意が出来、みんなで頂いたが、これは美味しかった。関谷先生自家製の小麦粉と味噌をカンパして下さったものだ。

午後からは、きつねっばら公園のあづまやが防災の避難場所になること、腰掛のベンチがかまどになるという説明をして、実際に避難所を作ってみる。が、規模が小さすぎて現実的な施設ではないことを知る。知恵は現場にあると言われるが実際に体験してみないと正しい評価は出来ないことを学ぶ。



こうして第2ブロック一同、団結して取り組んだ初めての防災キャンプを無事故で成功裡に終ることができた。この経験を生かして第2回、3回と実施していきたいと思う。終わりになりましたが、ご協力頂きました小平消防署小川出張所・社会福祉法人黎明会・自由遊びの会の皆様に感謝申し上げます。

以上、第2ブロックとして初めての防災訓練の報告とさせていただきます。

第3ブロックの報告 (小川1丁目《中》・上水新町2)

第3ブロックは、学生の授業やゼミとともに、地域へ広がってきました。「世代間交流」の講義、草野ゼミの学生が中心になって、白梅学園大学内で「コミュニティ・カフェ」を開催しています。地域の方やディケアサービスの方々、白梅学園大学の教職員や世話人と一緒に、学生が考えたゲームや歌、歓談を楽しんでいます。

また、2014年1月からは、コミュニティ・サロン「ほっとスペースきよか」が月に1回、小川町1丁目で交流をはじめました。ひとり暮らしの

方や近所のみなさん、学生も参加して、情報交換



をしたり、悩みの相談をしたりしています。手づくりのお漬物やお菓子を持ち寄って、毎

回10人前後が集まります。

2015年からは月に2回以上集まりたいね、と相談しています。

☆コミュニティ・カフェで人と繋がる☆

白梅学園大学 子ども学部

家族・地域支援学科 2年 今 優太

10月29日。とても心地良い秋晴れになったこの日、私が通っている白梅学園大学にて、コミュニティ・カフェが行われました。地域のさまざまな年代の方々に学校に招いて、世代を超えて交流を深めるとというのが目的で1年に3～4回、当校の2年生が中心になって行っています。授業の一環での行事ですが、私自身とても当日を楽しみにしていました。迎えた当日、4回目ということで私たちも企画、準備に慣れてはきましたが、それでも緊張や不安、当日のミスはありました。私は受付での仕事をしていましたが、来てくれた人の名前を書く名札を用意しておくのを忘れ、あわてて準備することになってしまい、早々準備不足を露呈してしまいました。肝心のコミュニティ・カフェ自体はとても盛り上がりました。

みんなで歌を歌ったりゲームをしたりなど、世代の垣根を超えて楽しむことができました。また今回は、はじめてディサービス「オリーブたかの

台」の利用者のみなさんが、全員でおこし下さり、そのおかげで今まで以上に活気があったように感じられました。



しかし今回は時間があまり取れず、宣伝活動に力を入れることができなかつたためか、施設の方を除いた地域の方々の参加が少なかつたように思えて、そこは反省すべき点かなと思いました。

最後になりますが、今回足を運んでくださった皆様ありがとうございました。来年もきつと行いますので、今回来ることができなかつた方々を含め、参加してみたいと思っている皆様、ぜひ参加してみてください。学生一同心よりお待ちしております。

第4ブロック (小川1丁目《東》・津田・上水1・たかの台・上水新町3)

☆「アットホームはぎ」で健康講和☆

地域世話人 萩谷 洋子

テーマ

10月19日(日)午後2時～4時、アットホームはぎ、の主催で健康講話を行ないました。

小川公民館の2階ホールにて 参加者45名が集まりました。講師は、昭和大学保健医療学部教授の佐藤和子先生です。

●健康づくりのための睡眠12か条

◎良い睡眠は、生活習慣病予防につながる。

◎長寿のためには、昼間の短い睡眠が大切。

●足湯を楽しむから健康状態がみえる。

●散歩のすすめ、良い姿勢で歩く。

☆ホットスペースさつき第4回学習会が開催されました☆



さつき運営委員会・白梅学園大学 学内世話人 森山千賀子

2014年9月28日(日)13時30分～16時の時間で、小川公民館においてコミュニティ・サロン「ホットスペースさつき第4回学習会が開催され、34名の方が参加されました。

今回の内容は、

1. 食物アレルギーのお子さんに対して必要な気配り

講師：白梅学園大学 小林美由紀学部長・小児科医

2. 救急処置の基本とAEDの使い方 お話は小平市消防署でした。



食物アレルギーに関しては、小学校のお子さんをお持ちの方も数名参加され、「神経質になりすぎない。」「基本的なことからの説明でわかりやすかった。」など、日常生活にとって非常に大切なお話を伺うことができました。また、AEDの使い方に関しては、「回数を重ねて練習することが大切」、「実際に使

ってみて、よかった」などの感想をいただきました。

アレルギーのお子さんがコミュニティサロンに来ることもあります。小川公民館には、AEDが設置されています。来訪者が安心できる場づくりが大切であることを、改めて学んだひとときでした（本事業は、平成26年度草の根事業育成財団助成対象事業）。

☆「サロン活動から見える地域づくり」について講演してきました☆

「府中市地域包括支援センターしんまち」の依頼を受け、11月14日（金）（午後2時～4時）に、渡辺穂積代表、日高文雄会計、森山の3名で府中市新町文化センターに出向きました。当日は、老人クラブ、町会・自治会、地域住民の他に、市役所、社会福祉協議会、シルバー交番の方など、30～40名の方が参集されました。



私たちは、小平西地区・地域ネットワークの設立から「ほっとスペースさつき」の立ち上げ、サロン運営の実際、地域づくりに大切なことなどについての

話をしました。

地域包括支援センターの地域連絡会では、後日サロンづくりに関する第1回目の意見交換会を行ったそうです。



過去にやってみただけで自治会では限界などの意見もあり、自治会や老人会などの既存組織の枠を超えて、地域有志でサロンを立ち上げようとする機運づくりに、少しでも貢献できたようです。安心できる地域の居場所づくりは、共通する地域課題であることを再認識しました。貴重な体験を、ありがとうございました。

（学内世話人 森山千賀子）

中学生の無料勉強会

“困り感”に寄り添う大人の存在意義

白梅学園大学子ども学部

発達臨床学科4年 阿部 歩



「わかった会」で生徒達と勉強をしてきて半年、私は大切な2つのことに気がつきました。1つ目は、どの子どもたちにも必ず“困り感”は存在するという事です。

そして2つ目は、その“困り感”に寄り添う、一緒に考える大人が必要であるということです。

まず1つ目の“困り感”については、日々の学習時間で実感する場面が多くあります。子ども達が抱える“困り感”でもっとも多いのが、勉強の仕方がわからないということと、わからないところがわからないということです。前者の問題は、子ども達が「わかった」と思うまで講師一人ひとりが熱心に指

導をしています。一方、後者の問題については私たち講師も頭を悩ませました。そこで、ある講師の提案で英文のミニテストを実施し、子ども達の苦手なところを明確にしました。次は、子どもたちは苦手なところがわかったことで、どこを復習すれば良いのか自分なりに勉強方法を工夫するなどの課題に挑戦できればと思っています。

2つ目の、“困り感”に寄り添う、一緒に考える大人の存在意義については、「わかった会」そのものの存在意義でもあると思います。思春期は様々な悩みを抱える時期ですが、その中でも学習の悩みは多くの割合を占めていると思います。子どもたちが「わかった会」に参加しているその1時間、2時間の中で、学習に対する悩みや不安を少しでも解消できればと思い、毎回活動に参加しています。こうして私たち大人、地域が子どもたちと向き合っていることこそが大切な時間であると思います。

皆さん、コミュニティ・サロンと「中学生無料勉強会」に足を運んでみませんか？

(下の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ：渡辺穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
12月17日(水) 13:30~15:30
12月28日(日) 11:00~14:00
「年忘れもちつき」会費 300円
1月19日(月) 13:30~15:30
問い合わせ：石川貞子
TEL:090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月7, 17, 27日：14:00~17:00
問い合わせ：萩谷洋子
- ④ **中学生無料勉強会(小川公民館内)**
毎週木曜日 18:00~20:30
問い合わせ：奈良勝行
TEL:090-4435-4306



イベントの予定

- ☆「自由遊びの会」「餅つき」 問い合わせ：足立 090-1771-7431
12月20日(土) 10時~16時 (会場) 子どもキャンプ場

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦	井上恵子・瀧口 優 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子 久保田進・穂積健児	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

奈良メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記 今号の『小平西のきずな』は第3ブロックの担当者に編集していただきました。ありがとうございました。第13号は第4ブロックが担当です。

早いものであと半月で今年も終わりですね。では皆さま、良いお年を——。(N)